

中央委員会 御中

承認 第12回 中央常任委員会 (2020年4月22日)

承認 第8回 中央委員会 (2020年4月25日)

## 2020年度立命館大学学友会学園祭運動方針

(起草：2020年度学園祭実行委員長 寺田 龍平)

### 目次

1.	はじめに.....	2
2.	学園祭運動の意義.....	3
3.	情勢分析.....	4
4.	今年度の方向性.....	9
5.	戦略.....	11
6.	期間設定と戦略.....	13
7.	祭典戦略.....	15
8.	各パートの役割.....	16
9.	実行委員会体制.....	17
10.	検討事項.....	22
11.	財務・財政.....	24
12.	総括方法.....	25
13.	おわりに.....	26

## 1. はじめに

### 1-1 本方針の位置づけ

本方針は、2020年度の学園祭運動を形成するにあたって、立命館大学学友会(以下、学友会)全体で特筆すべき情勢及び実態の認識を確認し、共通の活動方針となるべき方向性を明らかにし、具現化に向けた方策を提起することを目的としている。また、本方針を体現するにあたっては、2020年度立命館大学学友会年間方針(以下、学友会年間方針)に基づき実行委員会制度を採用し、『学園祭実行委員会』を立ち上げ、本方針の体現を担う組織として位置付ける。

本方針では、学園祭で企画を実施することを「参画」、学園祭に来ることを「来場」、学園祭において「参画」もしくは「来場」することを「参加」と定義する。

### 1-2 学友会年間方針における学園祭運動の位置づけ

- 学友会年間方針(抜粋)

#### §5-2 課外自主活動の発展 ②学園祭運動

学園祭は学生文化における最大の発信の場であり、課外自主活動の成果を発表する場を担保する行事でもある。さらに、学生への還元性が高く、学園の振興に寄与するため、2020年度も全学行事として実施する意義がある。

### 1-3 確認済み文書

- 2020年度立命館大学学友会学園祭実行委員長任命のお願い

### 1-4 2019年度立命館大学学友会学園祭運動総括の扱いについて

- 2019年度立命館大学学友会学園祭運動総括(抜粋)

#### 1-1) 本総括の位置づけ

本総括は、2019年度の学園祭運動における単年度総括である。これまでの学園祭において培われてきた経験と知識を用いて行われた本年度学園祭を、事前承認された方針に基づいて総括することを通して、次年度以降の学園祭の発展と成功に寄与することを目的とするものである。あくまでも2019年度学園祭実行委員会の所見であり、2020年度以降の学園祭運動において、総括内容を参照することを義務付けるものではない。

以上を踏まえ2020年度の学園祭運動においては、これを2019年度学園祭実行委員会からの貴重な一意見として扱うこととする。

## 2. 学園祭運動の意義

学友会は長きにわたり学園祭運動を展開し、その時折の学生の学びと成長に寄与してきた。学園祭を取り巻く情勢変化により学園祭の様態も変わりゆくが、学園祭運動が持つ核心的意義は変化することはない。また、学園祭運動を行う最たる意義は学生の成長に寄与することであるが、運動を形成していくにあたって、長期的に見据えたときにあらわれる意義も存在すると考える。

学友会年間方針より、学園祭は全学行事として指定されている。またその意義として、学生文化における最大の発信の場、課外自主活動の成果を発表する場を担保することがあげられている。この意義を踏まえ、2020年度における学園祭運動の意義を定める。

### 2-1 学園祭運動の短期(単年度)的意義

#### ● 学生の成長

学生の成長が学園祭運動の意義であり、以下の①②を達成することでこの意義は達成され则认为する。

#### ① 自己の確立

学生にとって節目となる機会を創出し、意識的に自己の振り返りを行うことで、自らの成長を実感する。また、さらなる成長に向けた目標を確認することで自己を確立させる。

#### ② 可能性の拡大

多様な人々が一挙に集まる場を創出し、それらと触れ合うことで、それまでの自分にはなかった発見や感性などを直接的に感じることができ、その後の自己の可能性を拡大させる。

### 2-2 学園祭運動の長期(継続)的意義

#### ① 学園振興

立命館大学全体を巻き込みながら学園祭運動を推進することで、学園祭運動は学園振興の一端を担う。学園が振興されることで、学生のさらなる成長や可能性の拡大につながると考えられる。

#### ② 地域貢献

学園祭運動は学生の成長を促すものとして2020年度以降も実施し続ける必要がある。そこで、継続的な学園祭運動を実施するために地域にも寄り添った学園祭運動を推進する。また、地域に受け入れられ、かつ、地域とのつながりが深まることでも学園祭運動の可能性は広がると考えられる。

### 3. 情勢分析

学友会年間方針で確認した情勢に加え、学園祭運動を形成していくにあたり、とりわけ特筆すべき、キャンパス情勢、参画者および来場者の実態を分析する。

#### 3-1 キャンパス情勢

立命館大学が有するキャンパスはいずれも地域一体型キャンパスであり、地域との強い関係性を持つ。もちろんキャンパスごとに地域環境との距離等にはじまる諸事情の違いはあるが、近隣住民との関係については整理する必要がある。その中で、過年度の議論を参考にしつつ、2020年度情勢を下記の通り判断する。

- 衣笠キャンパス(以下、衣笠)

衣笠は、地域住民の生活との距離が非常に近く、お互いに強く影響し合う関係にある。キャンパス近隣の地域との関係性については、特に喫煙、自転車マナーなどの問題が地域住民の目に触れやすく、また、キャンパス内での音出しなども制限せざるを得ない。しかし、今日に至るまでに地域住民と複数回の協議を重ねた結果、以前と比べて関係が改善されている。

- びわこ・くさつキャンパス(以下、BKC)

BKCの周辺地域は、集合住宅や工場等が地域ごとにすみ分けられた形で立地している。郊外型キャンパスであるため、地域住民との生活空間はそれほど密接には関わっていないが、地域住民とのキャンパス融和を図っており、2017年に開設されたスポーツ健康コモンズに地域住民の利用が一定見られるようになった。また、積極的に地域との交流を行っている団体も存在する。一方で、過去には地域住民との関係悪化が原因で東門が封鎖されるなどの問題も起きている。また、衣笠と同様に、自転車マナーや通学バスにおけるマナーの問題が顕在化していることも事実である。

- 大阪いばらきキャンパス(以下、OIC)

OICは、地域の関心も非常に高く、その関係性は他の2キャンパスとの比にならないほど深い。また、キャンパス内で地域住民の姿もよく見受けられる。さらに、いばらきフューチャープラザや岩倉公園などの茨木市によって運営される施設がキャンパス内にあり、行政との関わりも非常に強い。大学主催のイベントに対して地域からの関心も高く、多くの地域住民が訪れている。

---

### 3-2 参画者の情勢

- 学友会所属団体に所属している学生

学友会所属団体は、活動実績等によって、公認団体・同好会・任意団体・登録団体の大きく4つに区分されており、合わせて350以上の団体が存在している。学生は、その中から自身の興味やモチベーションに合わせて団体を選択し、活動している。各団体の活動頻度や施設待遇などは様々であるが、学園祭という場においてはその意欲次第で普段できないような活動も実現可能であるため、団体活動の一つの好機となりうる。ただし、現状、例年学園祭に参画していない団体が新たに参画をするということは少ない。これは、前年度の活動を踏襲する流れが団体に存在しているため、解決するのは容易ではない。しかしながら、そのような団体内にも一定数の参画希望者はいると考えられる。また例年、参画している団体においても、自団体の企画の運営に手いっぱいになり、他の企画を見る余裕がないという実態もある。

- ◎ 学芸総部本部所属団体

学園祭運動への期待が非常に大きい。多くの団体で学園祭が目標化されており、参画する団体の割合も非常に高い。また、広義の表現団体では、学園祭を活動の集大成として捉えていることもある。一方で、学園祭時期に大会など他の大きな行事を抱えている団体も存在する。

- ◎ 学術本部所属団体(以下、学術団体)

学術団体にとって、学園祭は大きな発表の場のひとつである。これまでの学園祭では、企画形態が学術団体の研究成果の発表に適さないことが問題としてあった。しかし近年その問題は解消されており、主に展示を用いた発表によって多くの学術団体が発表の場を得ている。

- ◎ 体育会本部所属団体(以下、体育会団体)

過去には、一部の体育会団体によって企画が実施されるなど、学園祭においても盛り上がりを見せていた。しかし、体育会団体の大部分においては、学園祭時期に試合等が集中していることもあり、学園祭よりも練習を優先させることがほとんどである。また、学園祭当日は、練習後などに参加することを考えていても、時間的制約があり参加が難しいことも考えられる。

◎ 登録団体

登録団体においては、キャンパスごとに活動の規模、意識、実態に差がみられる。

衣笠の登録団体、特に文化・表現系の団体は日常の活動では発表の機会が少ないこともあり、1年の活動の中で学園祭を重視している。また、活動の半期ごとの節目としてモチベーション向上に学園祭を利用している団体もある。

BKCの登録団体は、施設利用権の面では衣笠よりも恵まれているが、日常の中で満足に発表の場を得られているとは言えない。そのため、BKCに所属する団体にとっても、学園祭が相対的に大きな意味を持っていることが多い。

OICの登録団体は、キャンパスの規模や開学6年目ということも相まって、他キャンパスと比べると数が非常に少ない。また、発表に積極的な団体を除くと、コミュニティ形成として模擬店などに参画する団体が大半であり、全く参画しない団体も少なくない。

● 学友会に所属しない団体所属の学生

近年、プロジェクト団体や、学びのコミュニティ団体等、学友会管轄外の課外自主活動団体の活動も多く見られる。彼ら・彼女らの活動もまた、立命館大学生として本学公認の課外自主活動であり、それらの団体においても、学友会所属団体と同様に学園祭における発信、発展の機会を得られるべきである。しかしながら現状、参画を直接的に訴える手段は乏しい。

● 課外自主活動団体に所属していない学生

参画する「きっかけ」となるものが不足しているため、課外自主活動団体に所属する学生と比較して参画する意欲が乏しいといえる。

### 3-3 来場者の情勢

- 立命館大学生

立命館大学生の来場者としての側面は、自身の企画の合間を縫って他の企画を見ることや、友人・知人の発表を見に来ること、また、学園祭という雰囲気を楽しみに来ることなどが考えられる。

国際学生・留学生は、一部の授業や課外活動団体を除いては、日本人学生と関わる機会は少なく、他の学生以上に来場する目的に乏しい。

近年は障がい者の来場も見受けられ、2020年度においても一定数の来場が予想される。しかし、障がいの種類や重度は様々であることから、人によっては一定の支援がない限り、来場の難度が他の学生よりも高くなると考えられる。

- 立命館大学校友会

立命館大学では卒業生を校友と呼んでいる。立命館大学校友会は、立命館大学及び前身校の卒業生約36万人で構成されており、母校の発展を期し、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする団体である。2019年で設立100周年を迎え、歴史を未来へとつなぐ記念事業が展開された。卒業生ということで、立命館大学のイベントには一定の注目があると考えられる。

- 父母教育後援会

父母教育後援会は、立命館大学の教育方針に則り、大学と父母との連絡を密にし、教育事業を援助し、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする団体である。学生の目につきやすいところでは、2013年度から始まった100円朝食は、食費の一部を父母教育後援会が負担することで提供されている。日頃から学生の成長を見守る父母であるため、学生のイベントには非常に注目すると考えられる。

- 受験生・高校生

受験生や高校生は、大学やキャンパスの雰囲気を知る機会として来場することに、一定の期待が持てる。実際に高校や予備校から大学の雰囲気を知るために来場を推奨される場合もある。

立命館大学は、推薦入学者も多くいるため、入学を控えた彼ら・彼女らにとっては学園祭への期待度は高いと考えられる。

- 地域住民

キャンパス情勢に記述されているように、キャンパスごとに地域環境との距離等の諸事情に違いはあるが、どのキャンパスにおいても地域と密接に関わっている。そのため、地域住民の関心は良くも悪くも高いと考えられる。

- 学外者

学外者の中でも、立命館大学は一定の知名度を誇るため、上記に当てはまらない人に関しても、学園祭に興味がある人は一定数いると考えられる。対象を限定した広報手段をとらず不特定多数に対して拡散力を持つ媒体での情宣が効果的となる。また、近年の来場者は多様化しており、障がい者や外国人なども来場していたため2020年度においてもそのような来場者が一定数いることが予想される。



#### 4. 今年度の方向性

情勢を踏まえ上で、学園祭運動の意義を体現できるように、学園祭運動の指針となるべき方向性を定め、参加を促す取り組みを展開していく。

##### ① 学生文化の発信

学生が発信する文化の相互理解や、発信することによる自己表現、日常の成果の発信を行うことで、学生が刺激を得られるようにする。また、そのための準備という期間を設けることで、自己の振り返りや目標を確認する機会を生み出し、自己成長の実感と自己の確立につなげていく。

##### ② 非日常の創造

日常の中では得られない新たな発見をしたり新たな感性を刺激したりすることでもその人の可能性は拡大され、成長が促される。これらは、多様な人々が一挙に集まる学園祭の意義そのものであり、達成されなければならない。したがって、参加者にとって学園祭が日常とは異なる特別なものになるように、体感的・感覚的なアプローチを行い、非日常性のある空間を創造していく。

##### ③ 効果的な広報

自身を振り返る上で、客観的な評価を受けることは重要である。そのため、普段から関わりがある人だけではなく、関わりがない人からも評価を受けることが好ましい。さらに、より多彩な価値観を持つ人たちが集まることで新たな刺激を受けることも可能となる。したがって、多様な来場者を獲得するため、キャンパスや参加者の特性を考慮し、様々な対象に合わせた媒体や時期などを選択することで、学園祭を広く効果的に広報していく。

④ 参加者が親しみやすい環境づくり

情勢でも述べたように近年は、参加者が多様化している。このような情勢があるが、今後とも学園祭運動を継続的に実施し続けるためには、多様化している参加者に対応していかなければならない。したがって、多様化している参加者が親しみやすい環境づくりを行っていく。

⑤ 地域との調和

立命館大学が有するキャンパスはいずれも地域一体型キャンパスであり、地域との強い関係性を持つ。そのため、今後とも継続的に学園祭運動を行い、地域との関係をより良くしていくためには、地域からの理解が必要不可欠である。したがって、交通状態や騒音問題などの諸問題の解決とより良い関係性の構築のために、地域に寄り添った学園祭運動を推進し、地域との調和を図る。

## 5. 戦略

方向性を体現できるように学園祭運動を形成していく中で、2020年度における具体的な戦略を示し、この戦略に基づいて企画や計画を実施していく。以下、方向性を踏まえた2020年度の戦略を定める。

### ① 表現・発表の場の創出

多様化する学生文化を発信するために、それぞれの特色に合わせた表現・発表の場を設ける必要がある。学生文化には、学芸総部や学術部、体育会をはじめとする課外自主活動だけでなく、正課や学生自治など様々な側面がある。それらの発信方法は多岐にわたるため、それぞれの団体特性やキャンパス特性を活かした形での表現・発表の場を設ける。

### ② 学園祭環境の整理

日常と非日常の差異をつけるために学園祭環境を整理する必要がある。目に見える形では、いつもの学び舎を、体感的・感覚的に異なったものと見せるように、キャンパスを有効的に使った空間創造を行い、日常と対比してその日の存在を特別視できるような仕組みづくりに取り組む。目に見えない形では、その日に特別な感情を抱くことができるような企画や情宣の実施を図ることで、その日の存在を特別視できるような仕組みづくりに取り組む。

### ③ 幅広い層に目を向けた施策(多種多様な人々の参加)

学園祭に来場してもらい学生文化を感じ、人と人のつながりを持たせるためには、学生のみならず、幅広い層の人が来場することを意識して取り組まなければならない。多くの人に学園祭に参加してもらい高い次元で意義を達成するために、幅広い層の人にとって参加しやすい企画形態を用意していく必要がある。

特に人を惹きつける企画を実施することも有効であり、話題になりやすいような目玉となる企画を創出することや、そこから他企画への導線形成を意識した取り組みを行う。

また、もともと関心のないような人などに対しても有効な広報として、きっかけの創出が必要である。その一要素として幅広い層から興味を集めることの可能な広告塔の存在がある。

④ 能力や文化にかかわらず参加しやすい学園祭環境の創造

近年多様化する参加者に配慮し、あらゆる参加者が平等に学園祭に参加できる環境を創造する必要がある。具体的には、国籍や言語、文化、性別、年齢、障がいの有無、能力差などによらず参加できる環境を目指すことである。そのために興味を惹く取り組みを積極的に行うことや、多様な視点を持つことで、マイノリティにとっても学園祭に参加しやすいものにする。

⑤ 環境に配慮した取り組みの促進

日常とは異なる空間においては、特に日常と同等以上に衛生面や環境面には配慮し、過ごしやすく、環境に優しい空間創造に努める。

## 6. 期間設定と戦略

### 6-1 目的

前章で示した方向性などをもとに、2020年度の学園祭運動を形成していくうえで、学園祭運動に一貫した軸を創出し、運動としての統一性を持たせていく。また、その観点から、学園祭運動を推進する期間として、期間設定を行う。祭典当日に向けて、段階的な雰囲気形成や広報活動を行うことで、祭典に関わる者全体に学園祭に対する意識向上を図ってもらう。

### 6-2 期間設定

期間	名称
04月25日(土)～05月01日(金)	祭典準備期Ⅰ
05月02日(土)～08月02日(日)	祭典準備期Ⅱ
08月03日(月)～09月27日(日)	祭典準備期Ⅲ
09月28日(月)～11月07日(土)	祭典直前期Ⅰ
<b>11月08日(日)</b>	<b>祭典(OIC)</b>
11月09日(月)～11月14日(土)	祭典直前期Ⅱ
<b>11月15日(日)</b>	<b>祭典(衣笠)</b>
11月16日(月)～11月21日(土)	祭典直前期Ⅲ
<b>11月22日(日)</b>	<b>祭典(BKC)</b>

### 6-3 戦略

#### ① 祭典準備期

学園祭運動を円滑に行うための準備期間として位置づけ、実務的な種々の準備や周知など学友会として学園祭に責任をもって執り行うための方策を展開する。

- ・準備期Ⅰ

この期間では、主に実行委員会体制の確立及び祭典戦略の作成を行う。

- ・準備期Ⅱ

この期間では、学生に対して学園祭の周知と参画促進を行う。課外自主活動団体には企画参画の準備を進めるための情報を伝え、学園祭に向けての目標設定をしてもらう。

- ・準備期Ⅲ

この期間では、企画の議論を深め、準備を行う。また、来場者獲得のために学園祭の広報を本格的に推進し始める。

#### ② 祭典直前期

学園祭開幕に向け、より多くの人に参加を促し、具体的なイメージを持たせる。また、目に見えた雰囲気形成など、多様なアプローチによって意識付けを行い、学園祭運動を推進し始める期間として位置づける

- ・祭典直前期Ⅰ

祭典(OIC)に向け、学園祭運動を推進する。また、他祭典の広報も併せて行う。

- ・祭典直前期Ⅱ

祭典(衣笠)に向け、学園祭運動を推進する。また、祭典(BKC)の広報も併せて行う。

- ・祭典直前期Ⅲ

祭典(BKC)に向け、学園祭運動を推進する

#### ③ 祭典終了後

学園祭運動を形成した各々が振り返り、必要に応じて引継ぎを行う。また、学園祭運動に関する総括議論を適宜実施していく。

## 7. 祭典戦略

### 7-1 祭典戦略作成の意図

学園祭という大きなまとまりの中で各キャンパスにおいて祭典を行うにあたり、それぞれの実態に即した運動を計画する必要がある。そこで祭典ごとに、より詳細に情勢を分析し、実態に即して本方針を体現するために祭典戦略を作成する。これによって、より祭典にフォーカスした取り組みを意識しつつ、より有効的な学園祭運動を形成することが可能になる。それと同時に「各祭典の自立」と「学園祭運動の調和」を実現することができる。

### 7-2 記載事項

- ◎ 祭典を取り巻く情勢
- ◎ 本方針の意図を汲んだ具体的戦略
- ◎ その他学園祭実行委員会が必要と判断した事項

## 8. 各パートの役割

学園祭運動は全学行事であり、そのために学友会が一体となって推進していくことが重要である。そのためには、各パートの積極的な学園祭運動への参画と、協力体制を築く必要がある。以下、学友会構成パートの最低限の役割を認識し、それに沿った運動形成を行う。

- 中央常任委員会・基幹パート

中央常任委員会は、学園祭運動全体において監督責任を負う。また、本方針に立脚する範囲では扱うことのできない議決事項の審議をする。

基幹パートは各パートにおける利害衝突が起こった場合の調整を行う。また、実務や内包パートの支援に当たる。

- 自治会系パート

自治会系パートは、全学部生に対してアプローチ方法を持つ唯一の団体である。そこで学生実態などを把握するとともに、学園祭運動の認知や雰囲気形成を図っていく。1回生はオリター等によって比較的アプローチしやすいが、2回生以上へのアプローチについては模索していく必要がある。また、課外自主活動に参加していない学生への促しや、学生の正課による学びと成長の発信への支援を行う。さらに、学生参加の取り組みを支える組織として自治活動の一端を伝え、学生文化の発信も担う。

- 課外パート

課外系パートは、所属団体の支援や学園祭への参加を促すことはもちろん、所属団体の今後の発展を見据えたアプローチを行う。また、学生文化の発信も担い、重要な情報の周知など、様々な団体が全力で発表できるような環境を作る。

- 事業系パート

事業系パートは、学園祭にかかわる企画実施にあたり、高い専門性を活かし、大規模な広報や雰囲気形成を行う。またそれだけに留まらず、学園祭の参加者に期待感を抱かせるような広報等を行っていく。さらに、その活動を通して、自パートも学園祭の意義を達成できるように取り組む。



## 9. 実行委員会体制

### 9-1 目的

本方針を体現するにあたり、中央委員会における意思決定ではなく、より柔軟な組織体制が必要である。よって、中央委員会での本方針の承認及び中央常任委員会の監督を条件として、「学園祭実行委員会」を立ち上げ、本方針の体現を担う組織として位置付ける。

### 9-2 中央委員会及び中央常任委員会との関係

#### ① 権限委譲

学友会年間方針に基づき、学園祭運動を推進する専門機関として、学園祭実行委員会を設置する。その際、柔軟な意思決定を可能とするために、本方針に立脚する範囲の議決や予算執行の権限は学園祭実行委員会に委譲される。本方針で扱いきれない事案に際しては、学園祭実行委員長が中央常任委員会に報告し、審議を行い、必要があれば中央委員会での報告、審議を行う。

#### ② 執行監督

学園祭実行委員会での状況を把握し、中央常任委員会における監督責任を担保するため、学園祭実行委員長が中央常任委員会で学園祭実行委員会の議論状況を報告していく。

### 9-3 基本構成

#### ◎ 役割：

学園祭運動に際する全ての最終的な意思決定や調整を行う。

#### ◎ 責任：

中央常任委員会の責任のもと、学園祭実行委員会を立ち上げ、本方針に沿って学園祭運動を推進していく。本方針から著しく逸脱した行為がなされた場合には、中央常任委員会で議論し、適宜中央委員会にて報告、審議することとする。

#### ◎ 開催：

学園祭実行委員長の招集により開催される。

#### ◎ 成立：

議決権保持者の過半数の出席により成立する

#### ◎ 議決：

議決を行う議案は、議決権保持者の過半数の賛成により承認を行う。議決の可否については、賛成反対のみを用いることとする。

- 
- ◎ 構成：学園祭実行委員会構成一覧 (●=議決権保持者 ○=オブザーバー)
- 学園祭実行委員長 : 寺田 龍平 (スポーツ健康科学部 4回生)
  - 学園祭財務統括者 : 松岡 竜大 (法学部 4回生)
  - 特別事業部長 : 矢野 千瑳 (法学部 4回生)
  - 学園祭副実行委員長(OIC) : 加田 桜子 (総合心理学部 4回生)
  - 学園祭副実行委員長(衣笠) : 町田 翼 (法学部 4回生)
  - 学園祭副実行委員長(BKC) : 濱岡 千尋 (生命科学部 4回生)
  - 学園祭実行委員長補佐 : 若干名
  - 特別事業部副部長 : 若干名
  - 学園祭副実行委員長(OIC)補佐 : 若干名
  - 学園祭副実行委員長(衣笠)補佐 : 若干名
  - 学園祭副実行委員長(BKC)補佐 : 若干名

9-4 役割

- ① 学園祭実行委員長の役割
  - ・ 学園祭運動における最高責任者
  - ・ 学園祭実行委員会の総理
  - ・ 祭典間の調整
  
- ② 学園祭財務統括者の役割
  - ・ 学園祭運動における副責任者
  - ・ 学園祭運動にかかる財務的判断及び処理
  
- ③ 特別事業部長の役割
  - ・ 特別事業部の総理
  - ・ 専門的見地による学園祭実行委員会の議論の活性化
  
- ④ 学園祭副実行委員長の役割
  - ・ 各祭典における責任者
  - ・ 本方針を実現する各祭典の戦略の作成
  
- ⑤ 学園祭実行委員長補佐の役割
  - ・ 学園祭実行委員長の補佐
  - ・ パート支援
  
- ⑥ 学園祭副実行委員長補佐の役割
  - ・ 学園祭副実行委員長の補佐
  - ・ 特別事業部との連携
  
- ⑦ 特別事業部の役割
  - ・ 本方針実現への必要措置の策定及び推進
  - ・ 各祭典の戦略実現への企画等の策定及び推進
  - ・ 各企画における施設、備品、予算面の調整

---

## 9-5 企画の枠組み

本方針の体现に向けて行われる種々の取り組みや企画を、以下の通り定義する。

### ① 学園祭実行委員会企画

本方針を体现し、各祭典戦略に則った、有効かつ戦略的な企画の立案を展開できるような企画。この企画は予算がかからないものや学友会費外からの出費であっても、すべて学園祭実行委員会に提出、議論を行うものとする。つまり、学園祭で行うすべての企画に関しては、必ず学園祭実行委員会を通すことを義務付ける。

### ② 課外団体企画

学生の自己成長と自己確認の場としてのコミュニティの存在を強く押し出し、学園祭運動を創っていくうえでの重要な役割を果たす企画。

## 9-6 審議の流れ

1. 本方針体现に向けて祭典戦略の作成および審議を行う。
2. 議題提出者は学園祭実行委員会へ議題を提出する旨を申請する。
3. 特別事業部にて以下のヒアリングを行う。  
※本ヒアリングの有無は特別事業部長が判断する。
  - (a)総務ヒアリング
    - ・備品面や施設面の調整、確認を行う。
  - (b)財務ヒアリング
    - ・予算面の調整を行う。
4. ○特別事業部が提出する議題  
→特別事業部での審議及び議決を実施する。
  - その他の部署が提出する議題  
→特別事業部との調整を実施し、その結果を副実行委員長に報告する。
5. ○特別事業部が提出する議題  
→承認された議題においては、特別事業部での審議内容を副実行委員長に報告する。
  - その他の部署が提出する議題  
→学園祭実行委員会補佐会議での審議及び議決を実施する。
6. 学園祭財務統括者と特別事業部長が論点ヒアリングを行う。
  - ・学園祭財務統括者：予算充当が妥当であるかの観点から論点整理を行う。
  - ・特別事業部長：本方針を体现した企画形態であるかの観点から論点整理を行う。
7. 論点ヒアリングの結果を学園祭実行委員会へ報告する。
8. 学園祭実行委員会において、審議及び議決を行う。

9-7 一事不再議の原則の破棄

一事不再議の原則は、会議が非能率となることを防ぐため、また、議会として2つの意思が存在することになり議会の権威の点からも好ましくはない、とされていることから設けられる。学園祭実行委員会においては、学園祭運動を形成する上で一切の妥協なく議題を審議するという考えのもとこの原則を破棄し、学園祭実行委員長の判断により、再議を可能とする。

9-8 信頼性の確保

学園祭実行委員会には、本方針に立脚する範囲の議決や予算執行の権限が委譲されており、客観的根拠に基づいた判断が必要不可欠である。よって、議決権保持者が議題に関して、その内容に著しく関与している場合に関しては、客観的な判断が不可能であるとして、該当する議題においては議決権を行使することができないものとする。

9-9 解散

中央委員会における2020年度立命館大学学友会学園祭運動総括の承認をもって解散とする。尚、不測の事態が発生した場合は、総括議論の進捗状況の如何に関わらず、2021年3月末日を以って解散とする。

## 10. 検討事項

### ◎ 経年的課題

具体的な対策・手段については、今後学園祭実行委員会を中心として議論していく必要があるが、過年度の運営体制などを鑑みて下記の課題が存在する。

#### ● 人的資源

例年、運営面において特に人手不足の問題が深刻である。実際に、祭典当日は休憩の時間すらとれず、運営のみに徹している人員もいる。そのため、対外協力を募る等、より多くの人員で運営できるよう取り組む。

また、中央パートにおいては、主体的な参画は一部の団体にとどまり、全学行事として動いているという自覚があるパートは少ない。運営や協力だけでなく積極的に運動形成に参画することも期待される。

#### ● 安全対策

学友会が主催する企画やイベントにおいて2016年度、2017年度と2年連続で火気に関する事故が起きた。2018年度以降、火気等の大きな事故は起こっていないが、学園祭という環境では、事故の可能性は非常に高くなる。全企画において安全面に最大の配慮をし、運動を形成していく必要がある。

#### ● 統計情報

例年、来場者数は手作業で集計し、アンケートはラリー企画やゲーム企画でしか行われておらず信憑性のあるデータを用いた総括が行えていない。次年度以降も参考になるような有益な情報をとる必要がある。

#### ● 学園祭の実施が困難な際の対応

例年、悪天候等で学園祭自体が中止になるという事態は起きていないが、災害等は予測できるものではない。また現状として、それに対する対応は確立できていない。意義や方向性にも掲げたように、学園祭運動というのは祭典当日の発表にのみ存在意義があるわけではなく、それまでの準備期間での学びも重要である。そこで、最悪の事態にも備えて公平に正しく運動を形成していく必要である。

◎ 新型コロナウイルス

現在、新型コロナウイルス感染拡大の収束の目処は立っていない。そのため、学園祭運動についても今後の動きの予測が立てにくい状態である。また、実務や財務の面を鑑みて、中止等の判断をすることもないとは言い切れない。現段階としては、本方針通りに学園祭運動を推進していく予定であるが、今後の動向には細心の注意を払い、その時々に合わせて対応をしていく必要がある。

◎ 電磁的なカウント

例年、来場者数のカウントは、いくつかの地点を定めて、各地点2人体制で実施している。しかし、人の手でカウントしている等、様々な理由から必ずしも正確な来場者数のデータであるとは言い難い。そこで2020年度は試験的に、電磁的なカウントの導入も視野に入れる。2020年度において導入できれば最善であるが、そうでなくても2021年度以降につながるような準備や対策をしていく。

## 11. 財務・財政

### 11-1 財務・財政の方向性

限られた財源の中、継続して3キャンパスで学園祭を成功させるためには徹底した予算管理が必要不可欠である。学園祭実行委員会が巨額の予算を扱う自覚と責任を持ち、学友会費三原則に則って運営を行う。

財務・財政に関しては、例年、個人への負担の集中などの改善しなければならない課題も多く残されている。2020年度においても、過年度の評価点及び課題点を踏まえて、徹底した予算管理と透明な財政活動を行う。また、その指針を作成し、それに則り活動を行う。

### 11-2 指針となる文書

- 2020年度立命館大学学友会学園祭財務方針



## 12. 総括方法

### 12-1 2020年度の総括の方向性

学園祭運動に関する総括は、本方針及び各祭典戦略、各祭典総括、全企画の総括を元に作成し、学園祭実行委員会において議論することが原則となることは言うまでもない。しかし、時間の問題や実質的な議論を行う必要性等を考慮する必要があるため、次年度以降の運動形成及び発展につながる事項を重点的に、所定の方法により総括を行う

### 12-2 総括実施項目

各企画の詳細な総括については、関係する担当者間において議論するものとする。それを踏まえ、2020年度の学園祭実行委員会において総括を行うのは以下の事項とする。

1. 意義・情勢・方向性に関わる事項
2. 企画・計画に関わる事項
3. 学園祭実行委員会体制に関わる事項
4. 次年度に関わる重大な事項
5. 財務・財政に関わる事項
6. その他学園祭実行委員会が必要と判断した事項

### 13. おわりに

学友会年間方針より、学生への還元性が高いとされる学園祭運動は全学行事に指定されている。また、過年度と同様に、2020年度の学園祭運動にも多額の学友会費が充当される。全学行事とは、全学を挙げて、全学を巻き込みながら執り行われる大規模なものであり、多くの人の協力を無くしては実現がかなわない。したがって、学園祭実行委員会を主体とし学友会全体が一丸となり学園祭運動の推進に取り組む必要があることは言うまでもない。以上を踏まえ、本方針に則り、2020年度の学園祭運動を形成していく。

以上